

国語(現代文・古文・漢文)

岐阜大学 教育学部、医学部 (看護学科) (前期) 1 / 6

<総括>

出題数 現代文 1題・古文 1題・漢文 1題

試験時間 100 分

言語と人間の認識との関係について、複数の研究を挙げつつ論じた文章からの出題である。文章量は昨年より大幅に減少した。記述問題は昨年の7問から8問に増加したが、全体の設問数は昨年と同じ。一昨年1問出題された字数制限のある問題は出題されなかった。昨年1問出題された抜き出し問題は出題されなかった。

<本文分析>

大問番号	□
出典	『ことばと思考』(今井むつみ)
頻出度合 ・的中等	普通
分量 前年比較	分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加 昨年は8096字、今年は4548字で、3548字減少
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし)・やや難化・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	漢字の読み書き	標準	書き取り 6 問、読み取り 4 問。
		問二	記述	標準	傍線部の意味を説明する。
		問三	記述	標準	傍線部の理由を説明する。
		問四	記述	標準	傍線部の理由を説明する。
		問五	客観	易	「直喩を用いた文章」を選ぶ。基本的な知識を問う問題。
		問六	記述	標準	傍線部に関して、「研究動向」の変化を説明する。
		問七	記述	標準	傍線部に関して、「心」の意味の違いを説明する。
		問八	記述	標準	傍線部に関して、「結論」を本文の言葉を用いて簡潔に説明する。
		問九	記述	標準	傍線部に関して、「明らか」にされたことを説明する。
		問十	記述	標準	「本文全体」を踏まえて筆者の見解を説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

漢字の読み書きは例年 10 問出題されている。漢字の知識をしっかりと身につけておこう。  
 本文は評論からの出題が多い。読みやすい文章が出題される年もあればそうでない年もあるので、多様な文章にあたっておきたい。今年是比较的短い文章が出題されたが、長文が出題されることも多いので、長い文章に慣れておくことも重要である。  
 設問は記述問題が中心である。記述問題の練習をしっかりと積んでおく必要がある。

# 国語(現代文・古文・漢文)

## 岐阜大学 教育学部、医学部 (看護学科) (前期) 3/6

### <総括>

出題数

現代文 1題・古文 1題・漢文 1題

試験時間 100分

古文は、平安末期から鎌倉初期に成立した『古本説話集』からの出題。文章量は昨年よりも42字減少した。文章の内容はわかりやすく設問も1問減少したが、和歌に含まれる比喻を読みとる問題があるため難易度は変化なし。設問は語意・解釈・説明・文法・文学史など例年どおりの問題構成であった。解答内容に対して解答欄が狭く、まとめるのに苦労する設問が含まれていた。

### <本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『古本説話集』
頻出度合 ・的中等	普通 2022年度 冬期講習「古文総合」(補充問題【4】)
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年度は866字、今年は824字で42字減少。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	説話	問一	記述	標準	「心にくがり」「あやにくに」「そらの」「いつしか」の語句の意味を答える問題。日ごろの学習においてしばしば登場する語彙レベルである。
		問二	記述	やや難	誰の、どのような様子かを説明する問題。「誰の」については傍線部の後ろから考え、「どのような様子」については直前の内容が解答の根拠となる。
		問三	記述	標準	現代語訳の問題。「はかばかし」「長き名」の意味がポイントとなる。
		問四	記述	やや難	和歌に関する説明問題。注を踏まえて「紫の雲」が瑞雲(吉報の兆しとして現れる雲)のことであり、皇后(中宮)の異称でもあることを説明する。また「藤の花」が藤原氏の象徴であるという点に注意する。
		問五	記述	標準	誰の、どのような気持ちかを説明する問題。直前の内容が解答の根拠となる。
		問六	記述	標準	文法問題。「まじ」の意味はひとつに絞りにくく、該当部分も複数の解答が考えられる。
		問七	客観	標準	文学史の問題。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

岐阜大学の古文は、基本的な単語力・読解力などを総合的に問うものである。まずは重要古語を覚え、基本的な文法事項を習得すること。解釈問題は、傍線部を品詞分解したうえで一語一語正確に訳すことを心がけよう。その上で、主体や客体などの人物関係に注意しながら読解する練習をしよう。また、解答欄がコンパクトなため、内容説明や理由説明の問題は該当箇所を要領よくまとめる方法を学び、訓練しておこう。

# 国語(現代文・古文・漢文)

## 岐阜大学 教育学部、医学部 (看護学科) (前期) 5/6

### <総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間 100分
-----	--------------------	-----------

『貞観政要』巻二「納諫」からの出題で、唐の太宗を臣下が諫めた話である。桓公の故事を引用しながら、太宗のどのような過ちを諫めているのかを捉えるのが難しい。設問数は昨年と同じく5問だが、問五の説明問題は①・②の2問に答えさせる形になっているので、実質的には1問の増加となった。問一は、昨年は語の意味を問う問題であったが、例年通り語の読みの問題に戻った。書き下し文・現代語訳・内容説明は、いずれも基本的な漢文の句形と語句の知識を踏まえる問題であるが、送り仮名がすべて省略されているので、受験生には難しい。

### <本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『貞観政要』巻二「納諫」(唐・呉兢)
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年は199字、今年は217字で18字の増加。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	史伝	問一	記述	標準	語の読みの問題。「之(ゆく)」「若(もし)」「所謂(いはゆる)」はいずれも重要語。
		問二	記述	やや難	現代語訳の問題。「何一乎」は文脈から反語形と判断する。傍線部は「何ぞ亡びざる者有らんや」と読む。
		問三	記述	やや難	現代語訳の問題。傍線部は「郭君は善を善とすれども用ふること能はず。悪を悪とすれども去ること能はず」と読む。置き字「而」は逆接の用法であることをとらえる。「不能」の不可能表現と「用」「去」の訳出にも注意。
		問四	記述	標準	書き下し文の問題。「令」を用いた使役形に着目する。「～をして…しむ」の読みがポイント。
		問五	記述	やや難  難	①指示語の問題。「盧江不道、賊殺其夫、而納其室」をまとめればよい。 ②内容説明の問題。人を殺してその妻を奪った盧江王を非難しながら、自分も同様の行いをしているのに無自覚な太宗を、王珪が諫めていることに注意してまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

# 国語(現代文・古文・漢文)

岐阜大学 教育学部、医学部（看護学科）（前期） 6/6

## <学習対策>

基本句形や重要語が毎年問われるので、基礎知識をしっかり身につけておく必要がある。現代語訳や内容説明の問題は必ず出題されるので、内容的にまとまりのある文章や漢詩を日頃より読解し、話の展開や主旨を正確に把握する練習を心がけよう。傍線部の返り点や送り仮名を省略して問うことが多いので、白文を書き下したり解釈したりする練習もしておきたい。